

## 開催にあたって

近年、初等中等教育への情報教育の導入と強化が推進されております。しかし、初等中等教育においてコンピュータと情報科学をどのように教えるべきであるかについては、現在、さまざまな意見が闘わされている段階であり、確立された見解があるわけではありません。

一方、中学校・高等学校の生徒の理工系離れや数学離れの傾向は、今後のわが国の人材育成と産業基盤の確立に深刻な問題を投げかけております。

本シンポジウムでは、講演と討論を通じて、オペレーションズリサーチ(OR)を素材に、数理科学的考え方の面白さを伝える方法と、情報教育の中身(コンテンツ)を充実させる方法を探りたいと思います。

講演の先生方は、日本オペレーションズ・リサーチ学会「高校生のためのOR」研究部会で高校生にORの啓蒙活動に取り組んできた方々と、関連学会で情報教育の普及に積極的に取り組んできた方々です。情報教育はコンピュータの操作方法の教育ではなく「コンピュータを用いた問題解決」の教育であること、コンピュータを用いた問題解決には数理科学的考え方が大切であること、ORが高校生に数理科学的考え方への興味を喚起し、同時に、情報コンテンツの良い題材を提供すること、などの趣旨の講演が予定されております。参加者の皆様の活発な討論をお願いいたします。

本シンポジウムには宮城県教育委員会と仙台市教育委員会の後援、社団法人情報処理学会の協賛を賜りました。両教育委員会の後援依頼に関しては、布川博士先生(前宮城教育大学、現岩手県立大学)にお骨折りいただきました。また、本シンポジウムの企画全般には、OR学会「高校生のためのOR」研究部会の柳井浩先生(慶應義塾大学)、若山邦紘先生(法政大学)、田口東先生(中央大学)に協力いただきました。厚く御礼申し上げます。

シンポジウム「コンピュータ、教育、OR」  
実行委員長 中森 眞理雄